

会 社 案 内

令和 2年 2月 6日 改訂

鈴木化学工業株式会社

会社経歴書

社名

鈴木化学工業株式会社

本社 東京都大田区東蒲田2丁目35番8号

TEL 03-3732-7736 FAX 03-3732-7737

工場許可番号

No. 2171 (旧番号146)

創業

昭和16年3月

設立

昭和23年5月

資本金

1,000万円

役員

代表取締役社長 鈴木 孝雄

専務取締役 鈴木 秀和

工場所在地

本社に同じ

取引銀行

三井住友銀行 蒲田支店. みずほ銀行 羽田支店.
城南信用金庫 蒲田支店. 芝信用金庫 東蒲田支店.

営業製造品目

ハードボンド、ネオタック

電球口金用接着剤（液状、粉末状）、耐熱用電球口金用接着剤、
自動半田液、及び電球用副資材

ハードライト

シェルモールドレジン、鋳造用レジン、フィルターエレメント用ワニス、
レジストインク用レジン、感光剤用レジン、工業用フェノールレジン

コーカライト

鋳物用塗型剤

感光液

ポジ・ネガ用感光液、スクリーン印刷用乳剤、及び副資材

その他

自動車用ケミカル原料、及び化成品販売

会社の沿革

昭和16年	3月	初代社長が、東京都蒲田区に鈴木化学工業所を設立、電球口金用接着剤、成型材料の製造販売を始める。
昭和23年	5月	法人組織に改め、鈴木化学工業㈱を設立(資本金50万円)。
昭和23年	5月	商品名を「ハードライト」とする。
昭和29年	3月	シェルモールドレジン販売。
昭和29年	9月	耐保存性電球口金用強力接着剤を販売。
昭和30年	1月	商品名を分離、接着剤製品を「ハードボンド」とする。
昭和35年	12月	資本金を100万円に増資。
昭和37年	2月	ホルマリンタンクを設置。
昭和38年	7月	電球口金用粉末接着剤を販売。
昭和39年	7月	溶剤地下貯蔵タンクを設置。
昭和39年	10月	資本金を300万円に増資。
昭和50年	9月	反応装置2バッチ1システムを新設、稼働
昭和51年	3月	初代社長死去。
昭和51年	4月	代表取締役鈴木孝太郎、専務取締役に鈴木孝雄が就任。
昭和52年	3月	耐熱用電球口金用接着剤を販売。
昭和55年		電球口金用接着剤、輸出増大。(韓国、台湾、東南アジア)
昭和55年	6月	ポジ、ネガフォトレジスト(感光液)を製造開始。
昭和56年	6月	レジストインクを販売。
昭和58年	1月	試作用反応装置を設置。
昭和58年	7月	PS版用(ポジタイプ)感光液を製造開始。
平成1年	10月	自動車用シャシーブラック塗料を製造開始。
平成6年	4月	常務取締役に菅原通好が就任。
平成6年	5月	電球用自動半田液を製造開始。
平成7年	7月	18L缶充填機を設置。
平成8年	2月	資本金1000万円に増資。
平成9年	5月	二代目社長死去。
平成9年	6月	代表取締役に鈴木孝雄、取締役に鈴木秀和が就任。
平成12年	12月	倉庫兼粉末接着剤製造所の改築。
平成14年	4月	(有)大石薬品商会の廃業により、製品製造の引継ぎ販売。
平成18年	3月	ホルマリンタンク撤去
平成21年	1月	常務取締役 菅原通好が、定年による退任
平成26年	1月	専務取締役に鈴木秀和が就任。
令和2年	1月	代表取締役に鈴木秀和、取締役会長に鈴木孝雄が就任。

現在にいたる。

設備概要

合成樹脂縮合反応器（700L）	2
濃縮器	1
フェノールホルマリン混合タンク（500L）	3
フェノール樹脂溶解・混合タンク（800L）	1
セラックワニス溶解タンク（700L）	1
セラックワニス貯蔵タンク（350L）	1
アルコール製剤製造タンク（700L）	1
接着剤調合タンク（700L）	1
合成樹脂加工タンク（200L）	1
微粉砕機（アトマイザー）	2
粉砕機	1
粗砕機	2
粉末接着剤混合機（500L）	1
熱媒体ボイラー	1
メタノール地下タンク（5800L）	1
塗料製造タンク（2200L）	1
感光液製造タンク（600L）	2
感光液用濾過機	1
スクリーン印刷用乳剤製造タンク（200L）	1
横型真空ポンプ（スライド弁式）	1
18L缶充填機	1
攪拌機（タンク備え付け以外）	7
電子台秤	1
台秤	4
乾燥機	1
その他測定器等	
B型粘度計、温度計、デジタル温度計、デジタルpH計	
標準比重計、電子天秤、トルク測定器、引張強度試験機	
ホットスターラー、その他研究用機材	